

2023(令和5)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

若年性認知症カフェ

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。
就労型活動自助グループの活動の場として提供し、当日初めて参加される当事者とその家族との交流を、自助グループの方に積極的に行っていただけるよう依頼している。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2023年4月15日(土) 13時～14時 定員各6名
【会場】 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）
2. 本日のプログラム：交流会（近況報告）
3. 参加者数 8人（内訳：当事者 2名、家族 4名、専門職 2名）

4. 当日の様子

新年度初のカフェ開催です。今年度より新オレンジサポート室が2名体制になり、新しく配属された龍美（姓：たつみ）が初参加となりました。また、当事者のお一人も初参加の方で、奥様と一緒に少し緊張気味での参加。自己紹介の際には認知症の診断を受けてからこれまでのこと、現在取り組んでいること、これから取り組んでいこうとしていることも紹介してくださいました。

今年度はコロナ対策も緩和される方向なので、オレンジカフェの活動もアフターコロナとして新たな形を模索しながら、対面での交流も復活させていきたいとの声もあがっていました。

今回は参加人数が少なかったため、1回開催としました。

5. 所感

参加者がそれぞれ自己紹介と近況報告をおこなった中で、ご家族の中からユマニチュードについて改めて考える機会があったとの話があり、「当たり前なことだけど、介護される人と目線を合わすことや、ふれあいを大切にすることが大事なんですよね。介護者の余裕のない言動が介護される人に伝わり、お互いがイライラした状況になるから…」との言葉に、皆さん深くうなずいていました。当事者やご家族がお互いの感じていることや思いを共感・共有できるカフェを、今後も大切に支援していきたいと思っております。お土産はチョコステックケーキでした♪



以上